

【早大環境資源工学会奨学金について】

早大環境資源工学会奨学金は、環境資源工学科の学部生の勉学を経済的側面から支援するもので、現在、毎年2名の学生に各30万円（合計60万円）の支給を行っています。

この奨学金は、早大環境資源工学会奨学基金の運用益と会員の皆様からの寄付金を原資としておりますが、昨今の運用益減少の影響から、安定した支給水準を確保するためには、毎年20万円ほどの寄付金が必要となっております。

2021年度は以下の2名の4年生の学生に奨学金を給付することができました。ありがとうございます。

高橋 優輝さん（山口研究室）、土屋 裕さん（大河内研究室）

会費のお支払いの際には、早大環境資源工学会寄付金も合わせてよろしく願いいたします。

参考：早大環境資源工学会奨学金について

「早大環境資源工学会奨学金（本奨学金）」は、故海老原安太郎氏（昭和22年卒）のご厚志と、会員各位からのご厚意とを合わせた400万円を基金に、早大資源工学会奨学金制度として平成6年度に発足しました。平成9年度からは、学生部奨学課に運営を移管し、早稲田大学の正式な学内奨学金となっております。

本奨学金の支給対象は、環境資源工学科の四年生であり、支給対象者（受賞者）は、学業成績、家計状況及び人物の総合的な評価により選考されています。平成6年度の創設以来、この制度により延べ51名の学部生の勉学を経済的側面から支援してきました。

本奨学金は、早大環境資源工学会奨学基金の運用益を支給原資としています。早大環境資源工学会奨学基金は、会員、会員の父母、及びこの趣旨に賛同する方々からの寄付金によるものです。総会等の際に、会員の皆さんからいただいております寄付金の全額は、指定寄付として、この奨学基金に繰り入れてきました。

奨学基金の残高は、現在は2,402万円にまで積みあがっています。基金の増加とともに、基金の運用益を原資とする奨学金も、制度創設時は1名10万円であったものが、平成9年度から2名各20万円、平成19年度からは2名各30万円と増加し、満足行く支給水準を保ってきました。ところが、昨今の金利低下の影響で運用益、すなわち奨学金原資が大きく減少したため、支給水準の保持が困難な事態が発生してしまいました。

このため、このような低金利状態でも、一定した奨学金の原資を確保するため、早大環境資源工学会理事会と大学教学支援課とで話し合った結果、以下の制度を新たに創設することを平成26年度の早大環境資源工学会総会で提案し、ご承認をいただいております。

- 一、「早大環境資源工学会奨学基金果実補填奨学金（新奨学金）」を立ち上げ、早大環境資源工学会奨学基金の果実（運用益）と合わせて奨学金として給付することにより、従来通りの学生支援体制を確保する。
- 二、新奨学金設定後の指定寄付（会員の方からの寄付等）は、その都度新奨学金の原資に繰り入れる。
- 三、新奨学金は、創造理工学部の運営委員会の責任の下に運用する奨学制度とする。
- 四、各年度に給付を受ける奨学生の人数は2名とする。奨学金は、早大環境資源工学会奨学基金の果実と合算し、年額30万円とする。

現在までの奨学金受賞者リスト及び受賞者の抱負は当会HPをご覧ください。